



「年に一度は血管年齢を測ってみましょう」

所長 今村 浩

脈波（血管年齢）検査とは、手足の血管の硬さ具合と、血管の詰まり具合を同時に計れる検査です。横になった状態で両手、両足に血圧測定のリボンで圧力をかけて計測します。血管は動脈硬化が強いほど、血管にかけた圧力が速く伝わるという原理を応用した検査で、高血圧や糖尿病、コレステロールの高い方、タバコを吸われる方などは動脈硬化が進みやすいため、圧力の伝わり方が速く（血管年齢が高く）なります。一方、圧力の伝わり方が遅いほど血管に弾力がある証拠となり、血管年齢は若くなります。特に、高血圧、糖尿病、コレステロールが高い方は、年に一度は血管の固さ具合を調べてみましょう。

脈波検査で異常があると、心臓と脳の血管にも動脈硬化が進んでいる可能性があり、心筋梗塞や脳梗塞の前段階である心配があります。脈波検査で動脈硬化が年齢以上に出たり、血管が詰まっている可能性がある場合には、次の検査として、心臓の血管の詰まり具合を調べる「負荷心電図検査」を行います。場合によっては、脳の血管の硬さ具合を反映する頸動脈の詰まり具合を調べる「頸動脈エコー検査」を行うこともあります。

負荷心電図は、専用の自転車をこぎ脈拍数を上げて

同時に心電図を測定するもので、心電図の変化で心筋梗塞の前段階ではないかを予測します。頸動脈エコーは、首の両方の頸動脈に超音波を当てて、血管の詰まり具合を目で確かめます。いずれも当院で出来ます。

さて、当院で2021年2月～6月までに336人の方が脈波検査を受けられました。異常が出た方は55人で、そのうち42人が負荷心電図検査を受けられました。この42人の方のうち6人が負荷心電図異常と判定され、大津赤十字病院の循環器科に紹介しました。その結果、2人の方が心臓の冠動脈に狭窄が見つかり、血管内を拡張したあと網目状の金属筒を留置するステント治療で心筋梗塞になることを防ぐことができました。2人とも、検査前から胸が痛いなどの自覚症状が全くなかったため、九死に一生を得たと言えます。

動脈硬化が気になるみなさん、年に一度は脈波検査を受けてみましょう。医療保険が適用され、窓口一割負担では100円、三割負担で300円です。



お知らせ（診療体制の変更）

①4月から水曜午前の 診療医師が変わります

4月6日より水曜午前の診療医師が坂本愛医師から、馬場宏敏（ばば ひろとし）医師に変更となります。

②火曜夜の整形外科を 3月末で終了します

火曜日夜の整形外科の診療を、3月29日をもって終了いたします。患者様、地域のみなさまには大変ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。ご理解とご協力をお願い申し上げます。土曜日午前の整形外科診療は継続します。引き続きよろしくお願い致します。

2月の太陽光発電量 **953kwh**

CO2削減量… 481Kg
杉の木の年間吸収量 約34本分